

半導体人材の育成事業

熊本高専 拠点校に

独立行政法人国立高等専門学校機構(東京)は17日、デジタル社会を支える半導体産業を強化するため、熊本高専(合志市)と佐世保工業高専(長崎県)を拠点

本高専(合志市)と佐世保工業高専(長崎県)を拠点



記者会見を開き、人材育成事業について説明する
熊本高専の高松洋校長(中央)ら=合志市

校として「人材育成事業」を始めると発表した。台湾積体電路製造(TSMC)の菊陽町進出で半導体産業に注目が集まる中、大手企業や自治体による産学官連携で人材の質を高める。

同事業は2022年度から23年度にかけ、2高専で、企業の技術者や大学の研究者らが講師を務める4年生向けの「半導体工学概論」など2科目を開講する。3年生と専攻科のカリキュラムに、企業の出前講座や工場見学を導入。定期試験も組み込み、より高度な知識の定着を狙う。

産学官による研究フォーラムや実習を企画し、連携

を強化。九州・沖縄のほかの7高専でも人材育成に取り組み、半導体の研究開発から製造、製品によるサービス提供まで一連の産業分野への人材供給を目指す。

同日、2高専で記者会見し、オンラインで出席した同機構の谷口功理事長は「世界をけん引する人材を育てるには、若いうちから

半導体産業に関心を持ち、学びを深めることが不可欠。高専が人材育成の第一線を担いたい」と強調した。熊本高専の高松洋校長は「スピード感を持って科目やカリキュラムを検討した。企業や自治体と協力して現場実習にも力を入れたい」と話した。
(深川杏樹)

TSMC

台湾積体電路製造